

講義名	社会問題論				授業形態	
担当教員	水野 英莉	開講期・曜日・時限		前期 木曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
私たちが暮らす社会にはさまざまな問題があります。社会とのかかわりの中でその問題をとらえるとき、それは「社会問題」として私たちの前にあらわれます。今年度の講義では、現代日本社会にどのような問題があるのか、その問題の背景は何か、そしてその改善や解決の方策はどのようなものがあるかを考えます。 前半はとくにジェンダーに関わる問題、後半はとくにセクシュアリティに関わる問題について扱います。						
到達目標						
(1) 私たちが暮らす社会にはさまざまな問題がある。社会とのかかわりの中でその問題をとらえるとき、それは「社会問題」として私たちの前にあらわれる。現代日本社会にどのような問題があるのかを知ることが1つめの目標である。 (2) そのうえで、その問題の社会的・歴史的・文化的・経済的背景は何かを知り、社会の仕組みを学ぶことで、広い視野を持って問題を見つめることが2つめの目標である。 (3) さらに、社会問題を「多様な立場（弱い立場、強い立場）」に立って、改善したり、解決したりする方策を検討する力を養うことが3つめの目標である。単に問題について知るだけでなく、その中にある支配関係や人間の苦しみを無視せず、よりよい社会、人間関係、人生について考え、実現していく機会とする。						
提出課題						
・講義時に課題が出されます。欠かさず提出する必要があります。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
提出したコメントや質問に、教員からフィードバックします。						
評価の基準						
講義内の毎回の課題：30% 定期試験：70% 毎回の講義で課される課題や期末レポートは、他の人にコピーさせてもらったり、他の人にコピーさせたりすると、単位不認定となりますので注意してください。						
履修にあたっての注意・助言他						
教科書を指定しないので、講義に集中してのぞみ、自分でノートを作る必要があります。社会学の知識が必要になりますので、社会学基礎や社会学概論の履修を強く推奨します。						
教科書						
,使用しない。						
参考図書						
,なし。						

その他		
講義中に資料を配布します。参考文献は適宜指示します。		
授業計画		
1 オリエンテーション 2 ジェンダーの視点 3 CM分析1―葛城 4 CM分析2―母体 5 CM分析3―客体化 6 CM分析4―可能性 7 CM分析5―男性 8 CM分析6―男性学 9 CM分析のまとめ 10 セクシュアリティの視点前半 11 セクシュアリティの視点後半 12 映画視聴・分析前半 13 映画視聴・分析後半 14 特権とは何か 15 まとめ		
受講生の理解度と関心に応じて柔軟に対応するので、計画通りにはならないことがあります。		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
☐ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
予習：次回講義の内容を予まえ、時事問題等にアンテナを張る。 復習：配布資料やノートを見直し、理解を定着させる。質問をする。 課題：毎回の講義時に出される課題を提出する。中間と期末レポートを作成・提出する。 合計60時間。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
この科目では、社会問題を生じさせる社会の仕組みや働きを解き明かし、そのあり方を根本的に問い直し、そのために必要な専門的な知識を修得し、理解することができるようになる。よりよい人間社会の創造のためには、社会を知り、多様な人が協働して、公平な暮らしを実現することが不可欠となる。社会の問題や人びとの考え方を捉えることができるようになる部分に貢献することができる。弱い立場におかれる人に寄り添うこと、弱い立場があるという理解は、より良い社会を実現し、新しい社会、文化の創造には欠かせない点である。 講義内で種々の紹介資料を見てそこから読み取る能力や、ディスカッションを通じて聞き取り・表現の能力を養う。社会学的な調査研究の方法の理解、およびコミュニケーション能力を身につけることで、社会生活、日常生活に実践的に活用することができる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
LMS(学習管理システム)を使ってコメント、質問を提出。VTR視聴をし、ワークシートを作成。翌週、それぞれに対し全体でフィードバック。 初回講義からLMSが使えるように、すみやかに準備する。		
実務経験の有無及び活用		
備考		
新型コロナウイルス等の感染によって、やむを得ず休講を要し、講義を欠席しなければならない学生への対応について 1) 欠席しなければならない授業の実施日以降の2週間以内に、復帰後、欠席回の担当講師にメールすること。 2) その際に、対応方法、提出が必要な課題や書類等を教員から指示する。		